2025.3.15

後藤智香子（東京都市大学）

新宿区自治フォーラム

「こどもを中心としたまちづくりを考える」

- 自己紹介
  - 専門分野：都市計画・まちづくり
  - 研究キーワード：コミュニティスペース、こども環境、まちの居場所、保育施設、郊外住宅地再生・マネジメント　など

- **子ども子育てを取り巻くコミュニティの変化**
  - 進む少子化、新宿区ではどうか：子どもの姿が見えにくくなっている
  - 子どもを通じた地域のつながりの希薄化
  - 子どもに関する地縁組織である子ども会も衰退傾向
  - 現代社会：子育て「サービス」は多い託児や習い事、学習塾など。Web に情報は溢れている。
  - 一方で、地域における日常的なつながりづくりは難しくなっているのではないか。
  - そこで、少子化の今、意識的に子どもの視点・子育ての視点で地域の環境を見直し、地域のつながりを育む必要がある。
  - 日常的な地域のつながりを作りコミュニティを育む場：１）保育施設、２）「まちの居場所」
- **保育施設**
  - 「閉じる」施設も多い：保育の長時間化、保育士の多忙化などが背景
  - 一方で、保育園を地域に「開く」試みがある
  - 事例）福岡市の保育園：公園の愛護会からスタート、「まちにひらくと、保育もひろがる　子どもを中心にまちが生まれ変わる」
- **「まちの居場所」**
  - 「私的な場所でもなく、形式ばった場所でもなく、人が思い思いに居合わせられる場所。そして新たに地縁を結びなおす場所」　日本建築学会（2019）『まちの居場所』鹿島出版会
  - 「地域の人々が中心になって運営されている場所が多く、介護、生活支援、育児、退職後の地域での暮らし、貧困といった切実な、けれども従来の制度・施設の枠組みでは十分に対応できない課題に直面した人々が、自分たちの手で課題を乗り越えるために開かれた場所」　田中（2019）『まちの居場所、施設ではなく』、水曜社

- 様々な「まちの居場所」が生まれている
- なぜ増えているのか？：1）社会課題への対応、2）市民一人ひとりの「私」の思い
- 事例：横浜市のコミュニティカフェ

- おわりに
  - 地域における日常的なつながりづくりが難しい現状。
    - 「こどもまんなかまちづくり」は自然発生的にはできない。
    - 意識的・計画的にこどもの視点にたった取り組みを進める必要性。
    - 保育園、「まちの居場所」の可能性：地域に開かれた（もっと開ける可能性のある）空間＋子どもに関わるあたたかい“大人”がいる

以上